

[002_04]流體工學研究所報告表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7152015>

出版情報：流體工學研究所報告. 2 (4), 1944-08-25. Research Institute for Fluid Engineering,
Kyushu Imperial University

バージョン：

権利関係：

故安藏教授の遺稿を上梓するに當りて

所員九州帝國大學教授工學博士安藏善之輔君は官命により臺灣に出張の途上昭和十八年三月十九日遭難殉職せらる。誠に哀悼に堪へず。

君は本學教授として土木工學科に於て學生を指導せられ、傍ら流體工學に關する綜合的研究の必要なる所以を夙に提唱せられ、昭和十年の頃より同志とともに其の設立を劃策せられつゝありしが、遂に當局の容るゝ所となり、昭和十七年一月當流體工學研究所の設立を見るに至れり。引續き其所員に補せられ河川港灣の諸問題に就き着々研究を進め、工場悪水による河水汚瀆問題、海岸地形問題等より更に波壓、浮防波堤等の各問題に就き種々の業績を擧げられつゝありたり。本研究所の今日あるは實に君の盡力によるところ甚だ大なるものありと信ず。

これより先同君は粒體及粉體に於ける壓力に關する研究を重ね、獨創的解法を提案して土壓問題に大なる貢獻をなされ、これに對し昭和十四年土木學會は特に君に土木賞を贈呈して其功績を表彰せるは人の知るところなり。

學外に在りては學術振興會特別委員會委員として災害土木に關する研究を進め、又近くは學術研究會議應用學委員會委員として流體力學に關する研究に従事せらるゝと同時に福岡及山口兩縣下に於ける河川港灣方面の諸問題に參畫し大に寄與せられつゝありたり。

聖戰下科學技術の總力を發揮すべき重大なる時機に際し、尙春秋に富める君の活躍を期待すること誠に大なるものありし折柄はからずも遭難殉職せられたることは邦家のため痛惜の極と云はざるべからず。

茲に君の遺稿の一部を上梓するに當り君の業績を録し謹みて哀悼の誠を捧ぐ。

流體工學研究所長

栖原豊太郎

昭和 19 年 8 月